

骨盤臓器脱治療用リング - キタザトリングペッサリー

医療機器認証番号 223ADBZX00070000

KITAZATO[®]

こつばんぞうきだつ
骨盤臓器脱の症状でお悩みの方へ

優しい素材とカタチで

あなたをサポート



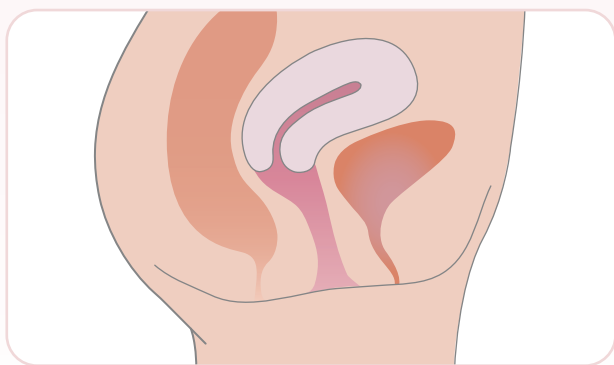
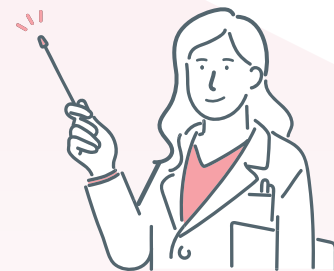
骨盤臓器脱についてお話しします

骨盤臓器脱とは、^{ちつ}腔から膀胱や子宮、腸など骨盤内の臓器が出てきてしまう状態のことです。

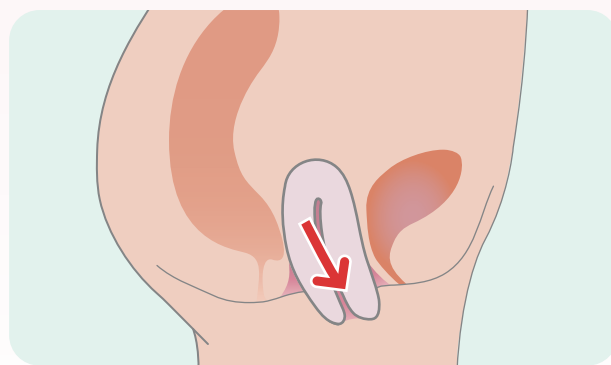
出産や加齢により、誰しもが経験する可能性があります。

初期症状は腹部に力がかかったときなどに体外へ飛び出す程度ですが、進行すると排尿障害（尿もれなど）や排便障害（便秘や残便感）が起き、日常生活に支障をきたします。

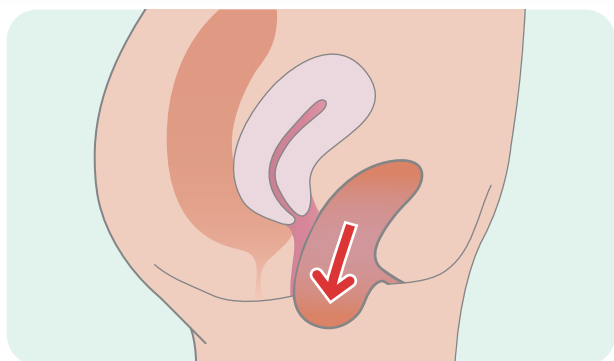
また、進行がひどい場合は手術での治療が必要になります。



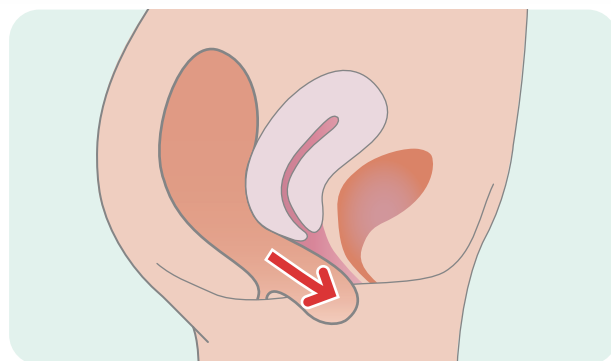
正常



しきゅうだつ
子宮脱



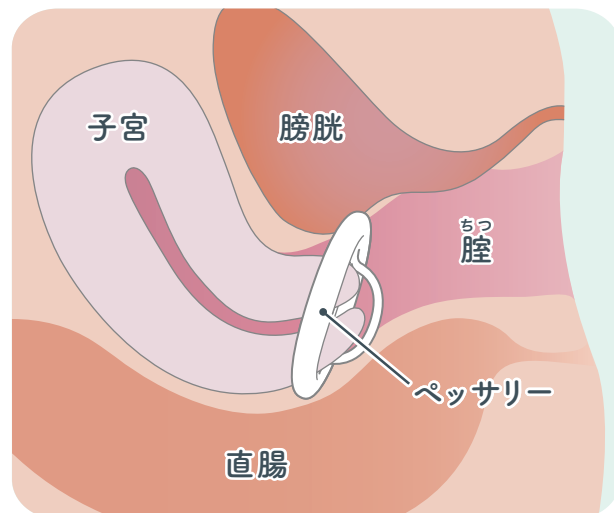
ぼうこうりゅう
膀胱瘤



ちよくちようりゅう
直腸瘤

ペッサリーとは

しきゅうだつ しきゅうかすい
ペッサリーは子宮脱・子宮下垂・
ぼうこうりゅう ちよくちょうりゅう
膀胱瘤・直腸瘤など骨盤臓器脱の
症状に対して、腔内に挿入し臓器を
支える医療機器です。



ペッサリーを安全に使用するために

ペッサリーは医療機関で医師や看護師が着脱する
場合と、ご自身で着脱する場合があります。
ご自身で着脱する場合でも定期的な受診が必要と
なります。



ご自身で着脱する場合のお手入れ方法

取り外した後は中性洗剤で良く洗い、流水で充分洗い流してください。
その後は再び挿入するまで、清潔に保つよう心掛けてください。

初回ご使用上の注意

○重要な基本的注意

1. 本品は未滅菌のため、滅菌を施した上で使用すること。
2. 本品の挿入と取り出しは訓練を受けた医師・看護師の下で行うこと。
3. 本品のサイズは医師の診断に基づいて決定すること。

○不具合・有害事象

1. 腔壁の損傷 / 2. 自然脱去 / 3. 出血 / 4. 腸への圧迫・貫通
- 上記のような症状があったり痛みや違和感がある場合には、
かかりつけ医にご相談ください。



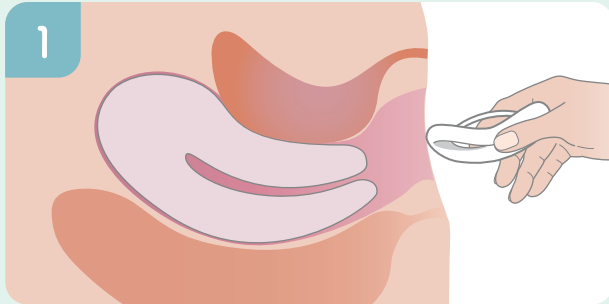
安全に使用するために、 正しい挿入方法を知りましょう

ペッサリーの詳しい挿入方法の動画を公式サイトでご紹介しています。
右記のQRコードを読み取り、サイトにアクセスしてご覧ください。

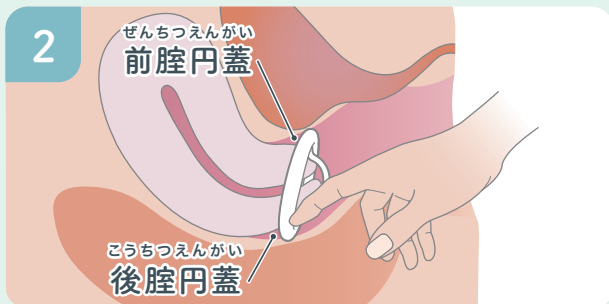


ペッサリーの使い方

A型 | 着脱しやすいハンドル付き



ペッサリーを左のイラストのような形にして持ち、腔内へゆっくり押し込みます。この時、リング中央の取っ手(ハンドル)は上を向くようにします。



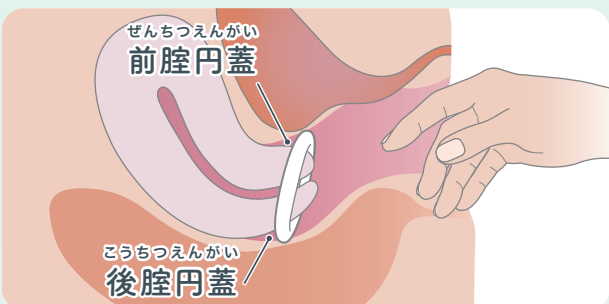
子宮の入口の周囲にある、おなか側のくぼみ=前腔円蓋と、おしり側のくぼみ=後腔円蓋の間に置くように装着し、リングを後腔円蓋にしっかり押し込みます。

ポイント!



取り出しやすいよう、ハンドルが腔の入口側にくるよう装着します。

O型 | スタンダードな形状



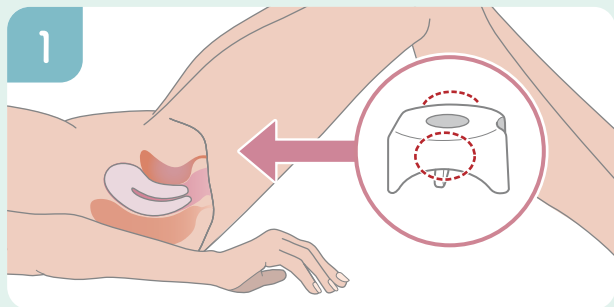
腔内へゆっくり押し込み、子宮の入口の周囲にある、おなか側のくぼみ=前腔円蓋と、おしり側のくぼみ=後腔円蓋の間に置くように装着します。



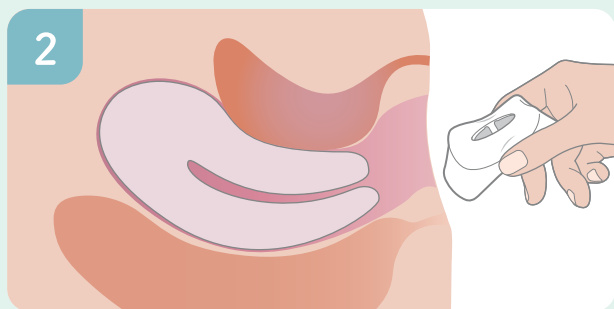
使用準備

よく手を洗い、臓器が出ている場合はゆっくりと腔内に押し込んでください。
トイレのビデ機能等を用いて、陰部をきれいにしましょう。

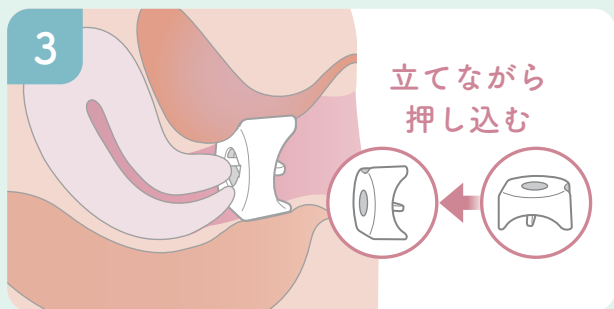
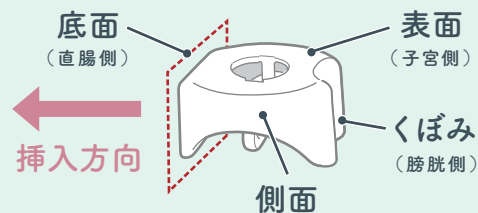
K型 | 面で支えるアーチ形状



赤い点線部分を人差し指と親指で握り、側面のアーチ部分が重なるように折り曲げます。



小さな穴が開いている広い面（表面）を上にし、底面側から腔内へ押し込みます。



腔の中でペッサリーを立てるように向きを変えながら、子宮口に押し込みます。

ペッサリーの詳しい挿入方法の動画を公式サイトでご紹介しています。
右記のQRコードを読み取り、サイトにアクセスしてご覧ください。

ペッサリーの使い方



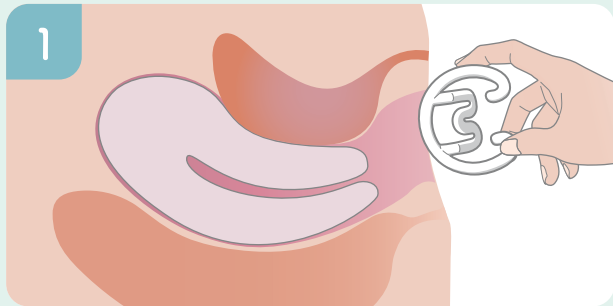
▶ 使い方の動画はこちら

ペッサリーの詳しい挿入方法の動画を公式サイトでご紹介しています。
スマートフォンで右記のQRコードを読み取り、サイトにアクセスしてご覧ください。

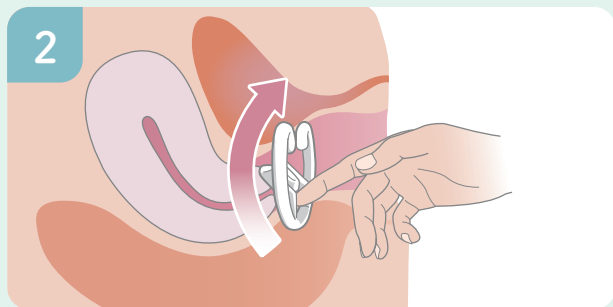
ペッサリーの使い方



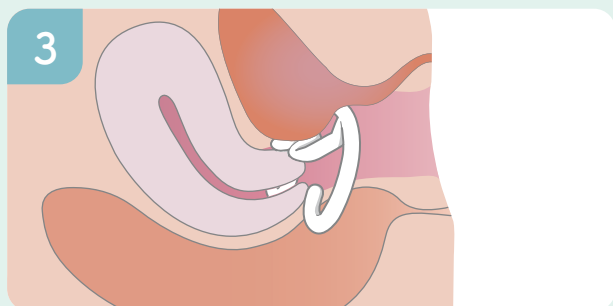
M型 | 支えることにこだわった設計



イラストのように、M状突起部が付いている方向から膣に挿入します。



M状突起部に指をかけ、イラストの矢印の方向に180°回転させます。



M状突起部で膀胱を支えるように装着します。

ポイント!

開放部が腸の圧迫を抑え、ペッサリーが回転しないように固定します。



開放部

直腸